

児童の困り感の緩和をめざすソーシャルスキルトレーニングの推進

各務原市立稲羽西小学校

児童自身がSSTを学びたいという意欲を持つこと。何に困っているか、それを解消するためどんなスキルが必要かを認識できていること

児童の困り感の把握

- 状況に応じた適切な対応が困難である
- 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うてしまう
- 含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある
- 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない
- 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある
- ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなる
- 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、問い合いが取れなかったりすることがある

褒め方の共通理解

- 言葉で褒める
- シール・メダル等を用いて褒める
- 保護者と連携して協力合せて褒める
- ◆**注意事項**◆
- スキンシップによる賞賛は避ける。
(頭をなでる等)

稲羽西小のSST留意事項

留意1 スモールステップ

- ①達成するまでのステップを細かくし、それぞれの小さな目標を設定する。
- ②ステップを1つでもできたら、進歩していることを児童に伝え、自覚させる。
- ③ステップを上ったことを賞賛し、児童が努力しているモチベーションを高める。

留意2 できたことをほめる

- 困り感を自覚している児童の実態調査から
- ◆いつも注意されていやな気持ちを持つ 95%
- ◆自分がだめな子だと思う 88%
- ◇褒められたらとてもうれしい 100%

全職員で、「できないことを注意するよりも、できたことをほめる」指導を徹底していく。

POINT 事実が同じでも、叱ることも褒めることもできる

稲羽西小のSST 指導方法

指導方法1 教示

- そのスキルがなぜ必要か、そのスキルが身についているとどのような効果があるかを説明して教える。
- 強制ではなく、児童が納得できるよう説明する。
 - 言葉や絵カードなどを用いて、見える化を図るよう心がける。

指導方法2 モデリング

- 手本となる他者の振舞い(スキル)を見せて学ばせる。または不適切な振舞いを見せてどこに間違いがあるかを考えさせる。
- 学級内にいる児童でモデルになる児童を見せて、意識させ学ばせる。
 - 不適切な振る舞いを具体的に教師が示して、意識させ学ばせる。

指導方法3 ロールプレイング

仮想場面を設定して、言い方・態度を練習させる。

POINT スキルを試したときに、児童が楽しく活動できたかどうか

- コミュニケーションに楽しみや喜びを実感させる

指導方法4 フィードバック

行動や反応を振り返り、それが適切であれば褒め、不適切であれば修正の指示を行う。

POINT 具体的スキルで、どこが良かったかをわかるように褒めること